



- 日常の先へ -

愛の家グループホーム甲府後屋

ナレーション: 小田切 PC操作: 深田

An electron micrograph showing several spherical virus particles with a distinct outer shell and a darker core. The particles are surrounded by a fine, granular material. The text "2020年 新型コロナウイルス" is overlaid in red on a semi-transparent grey background.

2020年 新型コロナウイルス



散歩

洗濯物干し

外へ出る機会は増えているが、、

花の水やり



規制緩和



2023.05.08には5類感染症へ移行

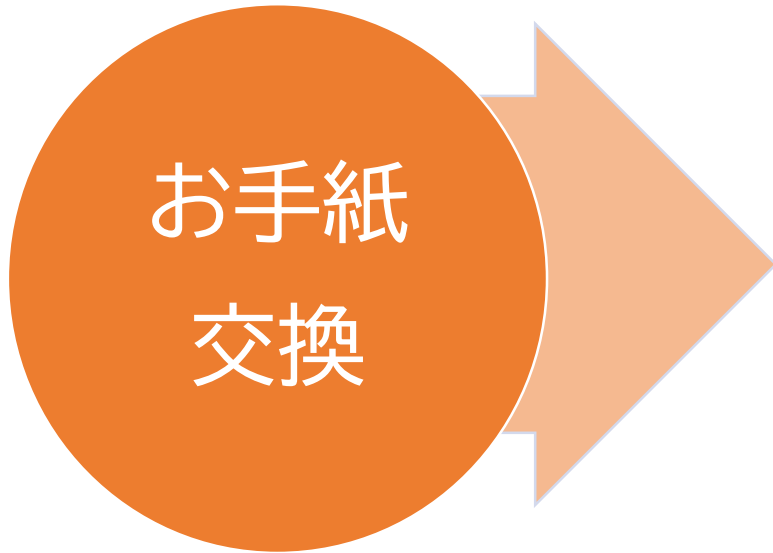


小学校、保育園との交流の再開！？

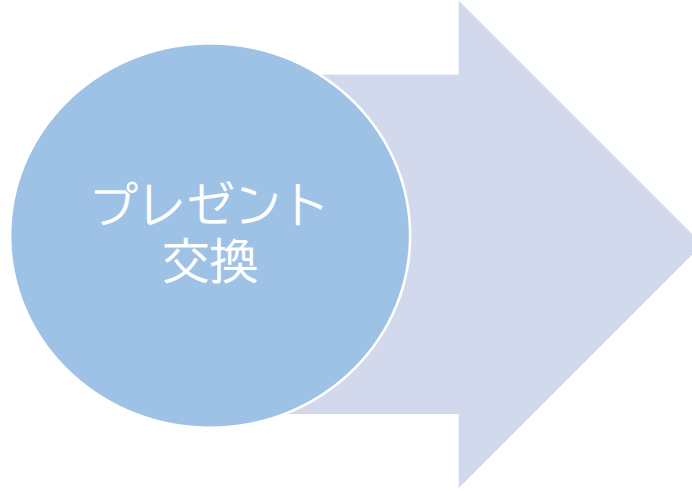
地域との交流も！？

活動の時系列

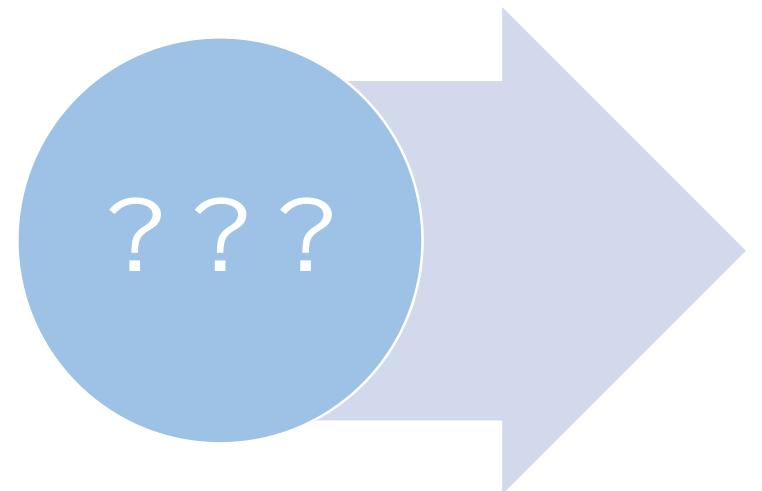
一昨年



昨年



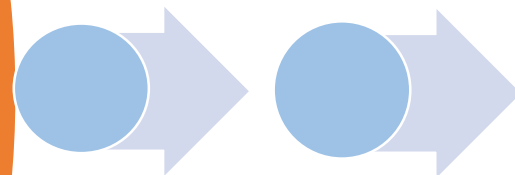
今年



お手紙



交換



【一昨年の活動】

勝原ホーム長の娘様との『お手紙交換』



【一昨年の活動】

近隣の保育園の園児たちとの『お手紙交換』



おーい！！



私たちの写真だよ

○ 園児との交流で笑顔になっていただく

○ 文字を書く機会を作る

○ 普段からコミュニケーションの意欲を持っていただく

しかし！

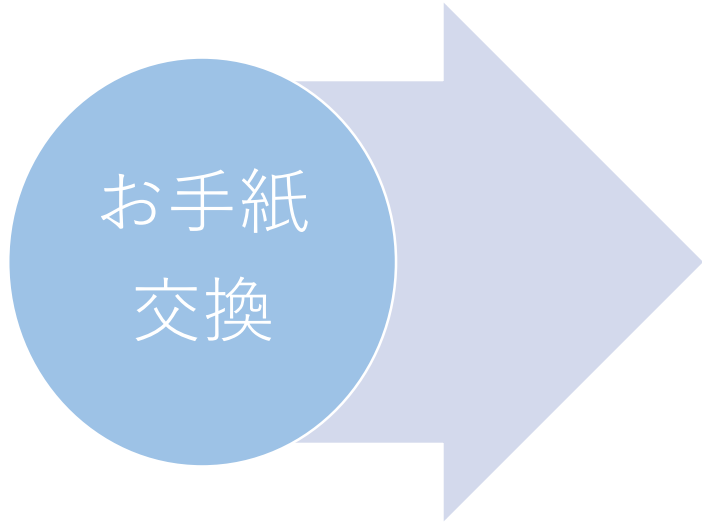
これらを目標に取り組んだ結果、ご入居者様の笑顔も見られ、文字を書くきっかけにもなった。

反省点もあり、

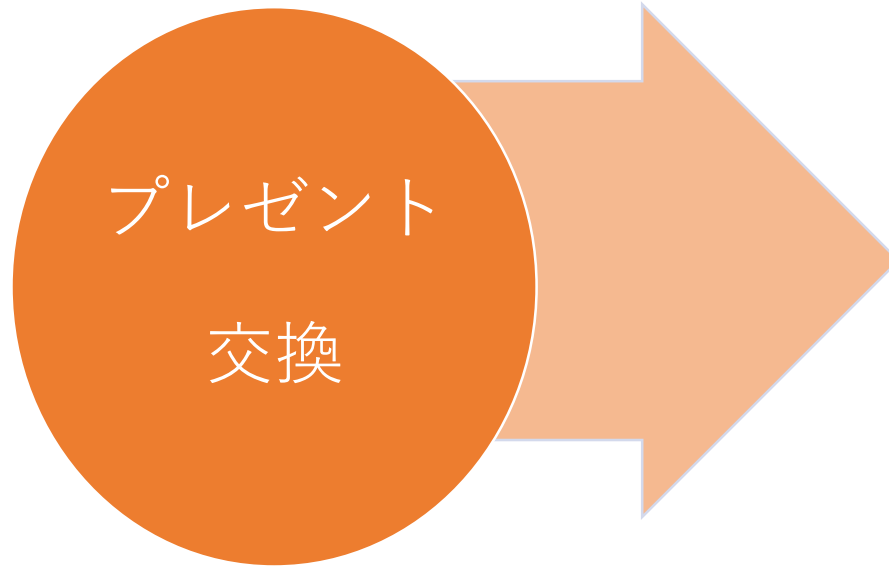
- 保育園との連絡が密に取れず、上手く連携できなかった
- 継続、定期的な交流が出来なかった。

活動の時系列

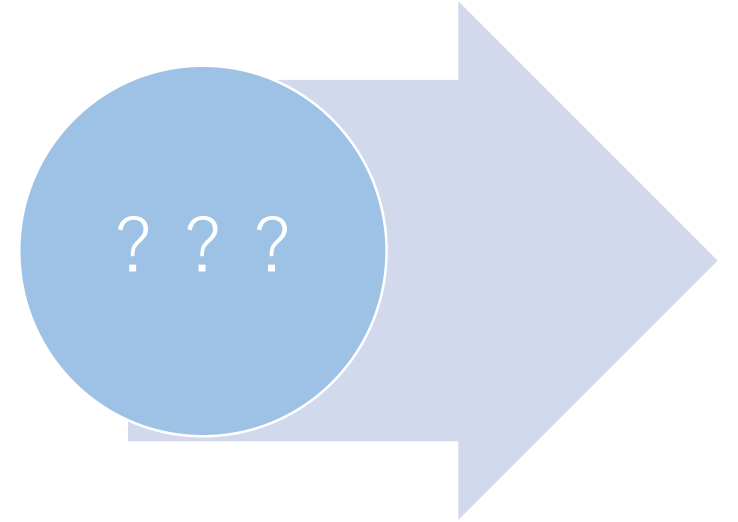
一昨年



昨年



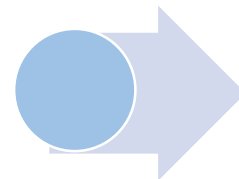
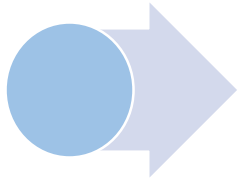
今年



プレゼン



交換

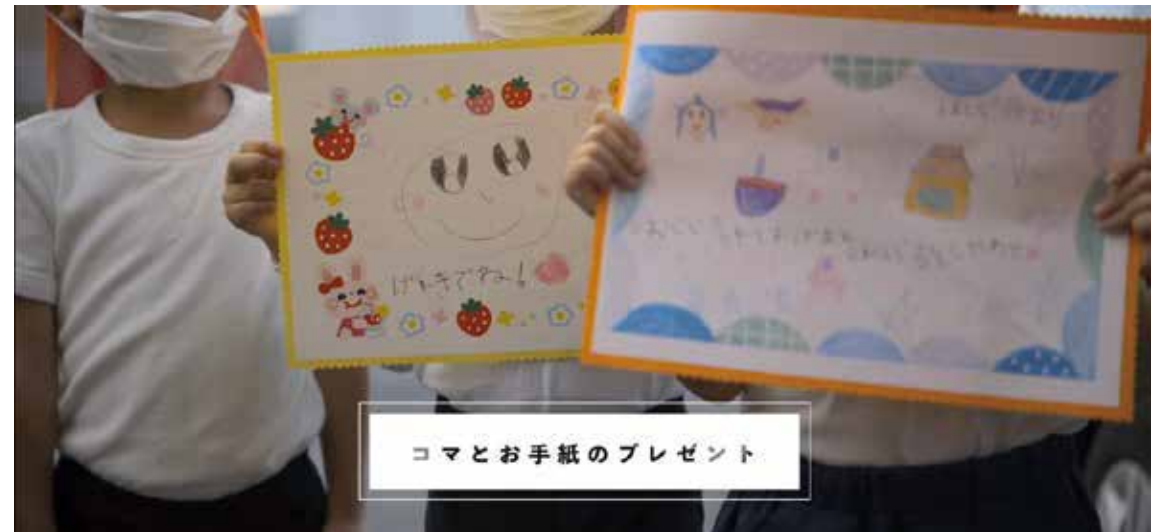


【昨年の活動】



可愛らしいプレゼントを
持った保育園の園児たちが

ご入居者様へ届けて
くれました！！



実際の動画



【昨年の活動】

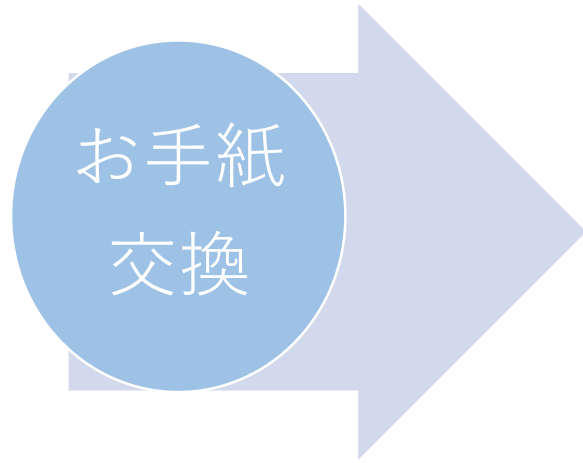
ご入居者様から保育園の
子どもたちへ



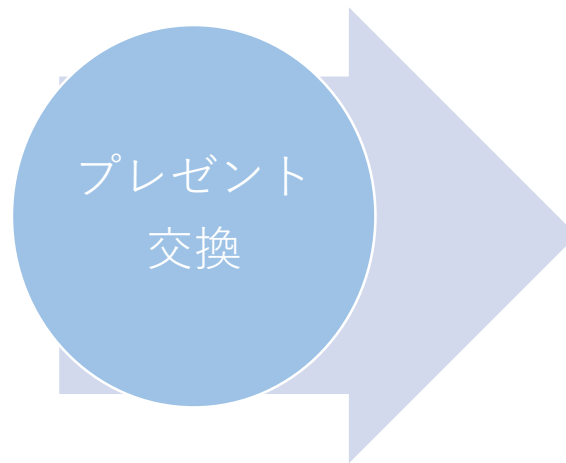
お返しに裁縫が得意なご入居者様
お手製の布巾、雑巾をプレゼント

活動の時系列

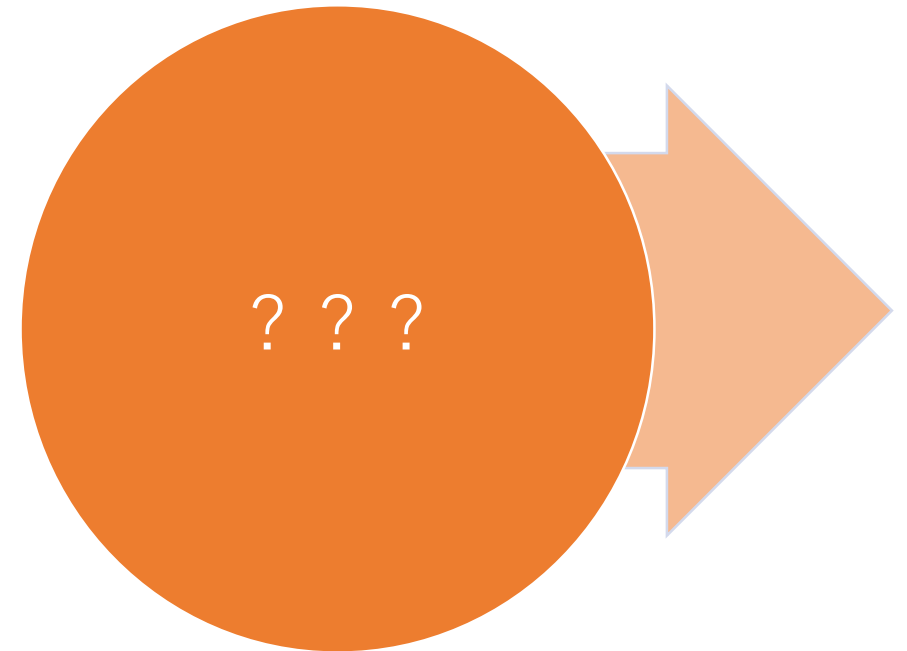
一昨年

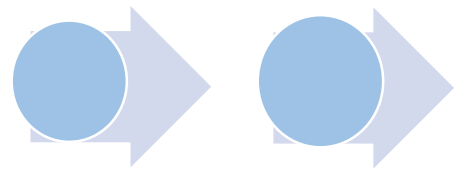


昨年



今年





【課題設定】 施設から出る機会が少ない傾向にある。

環境面では、ホームに中庭があるも整備できていない。

草刈りや木を切るなど、中々手を付けられずすぐには改善が難しい。

少しずつ花の水やりや洗濯物の取り込みなどで外へ出る機会は増えているが…

コロナで外出を控えていた。

そこで！！

ホーム外に注目する（近隣には以前交流していた小学校や保育園がある！）

【仮説】

近隣の小学校や保育園(外部)との交流を図ることで外へ出る機会がさらに増えるのではないかな？

〈交流によるメリット〉

- 子供たちとの交流を新鮮に感じてもらい、ご入居者様の**気分転換**になる。
- ご入居者様や職員の顔を覚えてもらうことで、**緊急時(単独外出など)に協力が得やすくなる。**
- **愛の家**を知ってもらうきっかけになる。



【検証】 どのような取り組みで外へ出る機会を増やせるか？



小学生の下校時間、保育園児のお散歩時間にスポットを当てる



小学校前の横断歩道やホーム駐車場での旗振りを行う

該当時間をリサーチ



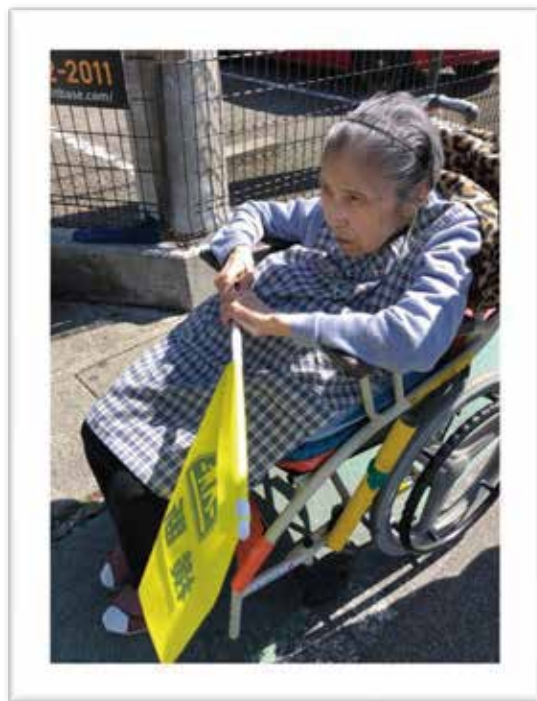
平日のスケジュールで実施

	小学校の下校時間	保育園のお散歩時間
月	15:05~15:55	※10:00~
火	14:40~15:55	※
水	14:30~15:20	※10:00~
木	15:05~15:55	※
金	15:05~15:55	※

※イベントや気候によって変更あり。

いざ、取り組みへ！！！！
















取り組みに対するスタッフの声




-  ・旗を持ちながら、下校する子どもたちに「さようなら」と挨拶され笑顔が見られた。
-  ・子どもが近くを通ってくれるのが嬉しい様子で、「またね、気を付けてね」と話していた。
-  ・小学生から、「ここの施設はお年寄りが暮らしているところなんだ」と認識してもらえた。



など良い意見がある一方で

取り組みに対するスタッフの声



-  ・下校時刻とフロアの様子によってタイミングが合わない事が多く、毎日の実施が出来なかった。
-  ・フロアにポスター等を作り「入居者様」に旗振りのことを知ってもらう必要があった。
-  ・「行ける日に」ではなく曜日を決めて実践した方が良い。

といった反省、改善意見もあげられた

【その他】

・小学校からコロナで学級閉鎖の連絡があった。
⇒旗振りを休止した期間もあるが、**地域との情報共有**が出来た。

・小学校の月間スケジュール表をもらえた。
また、保育園からも週間予定を教えていただけた。
⇒ここから**交流の幅が広がる**可能性がある。

(例)・運動会やその他イベント時の日程が分かっていると、
参加しやすい。
・地域住民の方を招くイベントを企画しやすい。

【まとめ】

- 子どもたちとの交流でご入居者様の笑顔を見ることが出来た。
 - 決まった時間に意識的に取り組むことで、外へ出る機会が増えた。
 - 天候が悪い日は取り組めなかった。
 - 小学生からご入居者様や職員に声を掛けてもらえた。
「こんにちは」「さようなら」「見守り頑張ってください」など
- 〈認知症状観点から〉
- 自分と似たような名前の小学生と会い、別の日も覚えていた。
 - 鬱があり部屋にこもりがちな方が、フロアで過ごす
(外に出る)機会が増えた。

【今後の展望】

- ◇ 中庭の環境整備
- ◇ 毎日実施出来るような職員の動きの見直し
- ◇ 取り組みカレンダーの作成
- ◇ 今回の取り組みをきっかけとした、交流の機会の模索
(お祭り、お遊戯会、ホームイベントのボランティア募集など)
- ◇ お手紙受け取りボックスの設置、お手紙交換の再開



『日常の中での交流、定期的なやり取り』

取り組みを継続し、**愛の家**グループホーム甲府後屋が
より地域に根付いたホームになるよう目指していきます！





ご清聴ありがとうございました

